

TERG

Discussion Paper No. 444

緊急事態宣言時に未就学児を抱える子育て世帯の親が
受けた影響に関するアンケート報告書

中山愛子
Aiko NAKAYAMA

2021年2月

TOHOKU ECONOMICS RESEARCH GROUP
Discussion Paper

GRADUATE SCHOOL OF ECONOMICS AND
MANAGEMENT TOHOKU UNIVERSITY
27-1 KAWAUCHI, AOBA-KU, SENDAI,
980-8576 JAPAN

目次

I. 調査概要

I-1. 調査目的

I-2. 調査の概要

II. 調査結果

II-1. 基本属性

II-2. 保育サービスの利用状況（緊急事態宣言以前）

II-3. 回答者の就業状況（緊急事態宣言以前）

II-4. 世帯収入（緊急事態宣言以前）

II-5. 回答者の就業状況の変化（緊急事態宣言中（2020年4月7日～2020年5月25日））

II-6. 仕事の仕方の変化（緊急事態宣言中（2020年4月7日～2020年5月25日））

II-7. 経済状況の変化（緊急事態宣言中（2020年4月7日～2020年5月25日））

II-8. 保育サービスの利用状況（緊急事態宣言中（2020年4月7日～2020年5月25日））

II-9. 健康とストレス（緊急事態宣言中（2020年4月7日～2020年5月25日））

II-10. 仕事の仕方の変化（緊急事態宣言解除（5月25日）～6月末）

II-11. 保育サービスの利用状況（緊急事態宣言解除（5月25日）～6月末まで）

II-12. 仕事の仕方の変化（7月1日～）

II-13. 保育サービスの利用状況（7月1日～）

II-14. 生活の実感（7月1日～）

II-15. 必要とする支援（7月15日～7月17日時点）

III. アンケート調査票

I. 調査概要

1-1. 調査目的

2020年3月から感染が拡大し始めた新型コロナウイルス感染症により2020年4月7日に東京都をはじめとする7都道府県に緊急事態宣言が発令された。その二日後の9日には東京都知事から「緊急事態宣言後の保育所及び学童クラブ等の対応について」が示され、そこで医療・交通・金融・社会福祉等の仕事を休むことが困難である保護者以外に対して保育所や学童クラブ等への登園を控えることを呼びかけた。同時に、経済団体等へ子育て中の従業員がテレワーク等の在宅勤務や休暇の取得ができるよう要請した。

この事態を受け、各市町村は認可保育所等を「原則休園」や「登園自粛を強く要請する」などして対応した。本調査の目的は、緊急事態宣言後、保育所等の休園によって未就学児を抱える子育て世帯が労働面、経済面、精神面でどのような影響を受けたのかについて明らかにすることである。

1-2. 調査実施概要

- (1) 調査地域：東京23区
- (2) 調査対象：未就学児を抱える親
- (3) 調査依頼：(株)クロスマーケティング社
- (4) 調査回収数：400人
- (5) 調査時期：2020年7月15日～2020年7月17日

本調査は、2020(R2)年度COI東北拠点【学内】COI若手支援プロジェクトの助成を受けて行ったものである。ここに感謝の意を表する。

II. 調査結果

II-1. 基本属性

回答者は、やや女性が多く、女性 53.5%、男性 46.5%であった。両親世帯が 90%以上であり、子供の数は 1 人ないし 2 人である場合が 80%以上を占め、世帯の平均人数は約 3.7 人であった。すなわち、両親と子供が 1 人か 2 人の核家族世帯が大半である。

居住地は大田区、練馬区、江戸川区、世田谷区、江東区で人数が多く、それぞれ 37 人、36 人、35 人、35 人、29 人である。

回答者の年齢は 40~49 歳が最も多い 43.5%であった。

(1) 性別

Q1	あなたの性別を教えてください。		回答数	%
	全体		400	100.0
1	女性		214	53.5
2	男性		186	46.5

(2) 居住地

Q2	お住まいの市区町村を教えてください。			
			回答数	%
	全体		400	100.0
1	新宿区		10	2.5
2	足立区		18	4.5
3	荒川区		12	3.0
4	板橋区		28	7.0
5	江戸川区		35	8.8
6	大田区		37	9.3
7	葛飾区		15	3.8
8	北区		18	4.5
9	江東区		29	7.3
10	品川区		21	5.3
11	渋谷区		7	1.8
12	杉並区		26	6.5
13	墨田区		13	3.3
14	世田谷区		35	8.8
15	台東区		10	2.5
16	中央区		8	2.0
17	千代田区		3	0.8
18	豊島区		9	2.3
19	中野区		5	1.3
20	練馬区		36	9.0
21	文京区		15	3.8
22	港区		5	1.3
23	目黒区		5	1.3
24	その他		0	0.0

(3) 年齢

Q3	あなたの年齢を教えてください。		回答数	%
	全体		400	100.0
1	20歳未満		1	0.3
2	20～25歳未満		5	1.3
3	25～30歳未満		26	6.5
4	30～35歳未満		86	21.5
5	35～40歳未満		108	27.0
6	40～49歳未満		174	43.5
7	50歳以上		0	0.0

(4) 子供の人数・年齢

Q4	同居しているお子さんは何人ですか。		回答数	%
	全体		400	100.0
1	1人		182	45.5
2	2人		168	42.0
3	3人		39	9.8
4	4人以上		11	2.8
5	同居している子どもはいない		0	0.0

Q5	同居している末子（一番年下のお子さん）の年齢はいくつですか。		回答数	%
	全体		400	100.0
1	0歳		65	16.3
2	1歳		66	16.5
3	2歳		60	15.0
4	3歳		53	13.3
5	4歳		47	11.8
6	5歳		61	15.3
7	6歳		48	12.0
8	7歳以上		0	0.0

(5) 世帯属性

Q6_1	世帯人数を教えてください。／人		
		回答数	%
	全体	400	100.0
	平均値		3.77
	最小値		2.00
	最大値		8.00

Q7	世帯構成についてお聞きします。		
		回答数	%
	全体	400	100.0
	1 母子家庭である	17	4.3
	2 父子家庭である	3	0.8
	3 両親のいる家庭である	380	95.0
	4 答えたくない	0	0.0

II-2. 保育サービスの利用状況（緊急事態宣言以前）

「認可保育所」を利用していた世帯が 150 世帯 37.5%で最も多く、次いで「幼稚園」が 111 世帯 27.8%、「もともと利用していない」世帯が 100 世帯で 25.0%だった。この上位 3 つだけで 87.3%に上る。

Q8	保育サービスは利用していましたか。利用していた保育サービスすべてを回答してください。		
		回答数	%
	全体	400	100.0
1	認可保育所（定員 20 人以上）	150	37.5
2	小規模保育事業（定員 19 人以下）	8	2.0
3	事業所内保育所	7	1.8
4	家庭的保育事業（保育ママ）	3	0.8
5	病児・病後児保育	6	1.5
6	認可外保育所（ベビーホテル含む）	12	3.0
7	ベビーシッター	10	2.5
8	幼稚園	111	27.8
9	認定こども園	15	3.8
10	その他の保育サービス	7	1.8
11	保育サービスは利用していない	100	25.0
12	答えたくない、わからない	8	2.0

Q9		緊急事態宣言以前はどの程度保育サービスを利用していましたか。	
		回答数	%
	全体	300	100.0
1	0～5時間未満	56	18.7
2	5～10時間未満	50	16.7
3	10～15時間未満	12	4.0
4	15～20時間未満	9	3.0
5	20～25時間未満	21	7.0
6	25～30時間未満	29	9.7
7	30～35時間未満	26	8.7
8	35～40時間未満	26	8.7
9	40～45時間未満	37	12.3
10	45～50時間未満	16	5.3
11	50～55時間未満	10	3.3
12	55時間以上	8	2.7

II-3. 回答者の就業状況（緊急事態宣言以前）

回答者においても、配偶者またはパートナーにおいても「正社員」が最も多く、回答者本人では57.0%、配偶者では59.5%に上る。男女で集計を分けると、女性で「非正規社員」および「もともと働いていない」と回答した人の割合が高く、回答者本人においても、配偶者またはパートナーにおいても「非正規社員」の80%以上が女性、「もともと働いていない」人の90%以上が女性である。職種は回答者、配偶者またはパートナーともに「事務・オフィスワーク」が最も多い。ただし、男女で集計を分けると、「営業」「IT・エンジニア」「専門職」といった職種で男性が多く、「販売」「医療・介護・福祉」で女性が多かった。

(1) 回答者と配偶者またはパートナーの就業形態

Q10		ご自身の就業形態はどれに当てはまりましたか。	
		回答数	%
	全体	400	100.0
1	公務員	23	5.8
2	正社員	228	57.0
3	非正規社員（パート、アルバイト含む）	43	10.8
4	自営業	16	4.0
5	もともと働いていない	82	20.5
6	その他	2	0.5
7	答えたくない	6	1.5

Q11	パートナーまたは配偶者はどの就業形態に当てはまりましたか。		
		回答数	%
	全体	400	100.0
1	公務員	24	6.0
2	正社員	238	59.5
3	非正規社員（パート、アルバイト含む）	44	11.0
4	自営業	19	4.8
5	もともと働いていない	60	15.0
6	その他	0	0.0
7	パートナーや配偶者はいない	10	2.5
8	答えたくない	5	1.3

（回答者本人）男女割合

		女性	（女性）%	男性	全体
1	公務員	7	30.4	16	23
2	正社員	78	34.2	150	228
3	非正規社員（パート、アルバイト含む）	39	90.7	4	43
4	自営業	5	31.3	11	16
5	もともと働いていない	79	96.3	3	82
6	その他	2	100	0	2
7	答えたくない	4	66.7	2	6

（女性）%はその就業形態全体のうち、女性の占める割合を示す。

（配偶者またはパートナー）男女割合

		女性	（女性）%	男性	全体
1	公務員	12	50	12	24
2	正社員	75	31.5	163	238
3	非正規社員（パート、アルバイト含む）	36	81.8	8	44
4	自営業	4	21.1	15	19
5	もともと働いていない	54	90	6	60
6	その他	0	0	0	0
7	パートナーや配偶者はいない	1	10	9	10
8	答えたくない	4	80	1	5

(2) 回答者と配偶者またはパートナーの職種

Q12_1	ご自身の職種は何でしたか。ご自身に当てはまるものをすべて選択してください。			
			回答数	%
	全体		312	100.0
	1	営業	56	17.9
	2	事務・オフィスワーク	120	38.5
	3	販売	14	4.5
	4	飲食	5	1.6
	5	サービス・警備・清掃	8	2.6
	6	イベント・レジャー・娯楽	0	0.0
	7	教育・カルチャー・スポーツ	10	3.2
	8	理・美容	0	0.0
	9	医療・介護・福祉	23	7.4
	10	ドライバー・配達	2	0.6
	11	製造・工場・倉庫	8	2.6
	12	I T・エンジニア	39	12.5
	13	編集・出版	5	1.6
	14	専門職	22	7.1
	15	その他	12	3.8
	16	答えたくない	5	1.6

Q12_2	パートナーまたは配偶者の職種は何でしたか。パートナーまたは配偶者に当てはまるものをすべて選択してください。			
			回答数	%
	全体		330	100.0
	1	営業	57	17.3
	2	事務・オフィスワーク	120	36.4
	3	販売	17	5.2
	4	飲食	12	3.6
	5	サービス・警備・清掃	9	2.7
	6	イベント・レジャー・娯楽	1	0.3
	7	教育・カルチャー・スポーツ	9	2.7
	8	理・美容	2	0.6
	9	医療・介護・福祉	11	3.3
	10	ドライバー・配達	3	0.9
	11	製造・工場・倉庫	8	2.4
	12	I T・エンジニア	27	8.2
	13	編集・出版	3	0.9
	14	専門職	25	7.6
	15	その他	32	9.7
	16	答えたくない	11	3.3

(回答者本人) 男女割合

		女性	(女性) %	男性	全体
1	営業	15	26.8	41	56
2	事務・オフィスワーク	71	59.2	49	120
3	販売	8	57.1	6	14
4	飲食	4	80	1	5
5	サービス・警備・清掃	5	62.5	3	8
6	イベント・レジャー・娯楽	0	0	0	0
7	教育・カルチャー・スポーツ	3	30	7	10
8	理・美容	0	0	0	0
9	医療・介護・福祉	12	52.2	11	23
10	ドライバー・配達	0	0	2	2
11	製造・工場・倉庫	5	62.5	3	8
12	I T・エンジニア	6	15.4	33	39
13	編集・出版	1	20	4	5
14	専門職	6	27.3	16	22
15	その他	3	25	9	12
16	答えたくない	1	20	4	5

(女性) %はその職種形態全体のうち、女性の占める割合を示す。

(配偶者またはパートナー) 男女割合

配偶者		女性	(女性) %	男性	全体
1	営業	11	19.3	46	57
2	事務・オフィスワーク	53	44.2	67	120
3	販売	11	64.7	6	17
4	飲食	3	25	9	12
5	サービス・警備・清掃	1	11.1	8	9
6	イベント・レジャー・娯楽	0	0	1	1
7	教育・カルチャー・スポーツ	6	66.7	3	9
8	理・美容	1	50	1	2
9	医療・介護・福祉	10	90.9	1	11
10	ドライバー・配達	0	0	3	3
11	製造・工場・倉庫	2	25	6	8
12	IT・エンジニア	5	18.5	22	27
13	編集・出版	2	66.7	1	3
14	専門職	5	20	20	25
15	その他	16	50	16	32
16	答えたくない	7	63.6	4	11

(4) 回答者と、配偶者またはパートナーの就業時間

Q13	ご自身の就業時間はどれくらいでしたか。		回答数	%
	全体		312	100.0
1	0～5時間未満		14	4.5
2	5～10時間未満		36	11.5
3	10～15時間未満		11	3.5
4	15～20時間未満		7	2.2
5	20～25時間未満		8	2.6
6	25～30時間未満		8	2.6
7	30～35時間未満		15	4.8
8	35～40時間未満		46	14.7
9	40～45時間未満		75	24.0
10	45～50時間未満		43	13.8
11	50～55時間未満		23	7.4
12	55時間以上		26	8.3

Q14	パートナーまたは配偶者の就業時間はどれくらいでしたか。		
		回答数	%
	全体	330	100.0
1	0～5時間未満	16	4.8
2	5～10時間未満	22	6.7
3	10～15時間未満	23	7.0
4	15～20時間未満	11	3.3
5	20～25時間未満	5	1.5
6	25～30時間未満	14	4.2
7	30～35時間未満	27	8.2
8	35～40時間未満	40	12.1
9	40～45時間未満	50	15.2
10	45～50時間未満	46	13.9
11	50～55時間未満	16	4.8
12	55時間以上	51	15.5
13	わからない	9	2.7

II-4. 世帯収入（緊急事態宣言以前）

Q15	世帯収入はどの程度でしたか。		
		回答数	%
	全体	400	100.0
1	300万円以下	18	4.5
2	301万円～500万円以下	61	15.3
3	501万円～800万円以下	118	29.5
4	801万円～1000万円以下	79	19.8
5	1001万円～1500万円以下	95	23.8
6	1501万円以上	29	7.3

II-5. 回答者の就業状況の変化（緊急事態宣言中（2020年4月7日～2020年5月25日））

緊急事態宣言が出されたのち、就業形態に変化がない人は、回答者でも、配偶者またはパートナーにおいても60%以上である。変化があった人のうち、回答者本人で5人、配偶者またはパートナーで5人が失業していた（全体の1.3%）。休職や失業した人の理由で最も多かったのが、「保育園の休園または利用自粛により在宅で保育しなければいけなくなった

から」であった。

(1) 回答者とパートナーの就業状況の変化

Q16_1	ご自身の就業形態の変化をお聞きします。ご自身に当てはまるものをすべて選択してください。			
			回答数	%
	全体		400	100.0
	1	公務員になった	12	3.0
	2	正社員になった	32	8.0
	3	非正規社員になった（契約社員・派遣社員・パート・アルバイトを含む）	8	2.0
	4	自営業になった	4	1.0
	5	休職した	10	2.5
	6	失業した	5	1.3
	7	もともと働いていない	38	9.5
	8	特に変化はない	259	64.8
	9	パートナーまたは配偶者はいない	0	0.0
	10	答えたくない、わからない、該当しない	33	8.3

Q16_2	パートナーまたは配偶者の就業形態の変化をお聞きします。パートナーまたは配偶者に当てはまるものをすべて選択してください。			
			回答数	%
	全体		400	100.0
	1	公務員になった	14	3.5
	2	正社員になった	32	8.0
	3	非正規社員になった（契約社員・派遣社員・パート・アルバイトを含む）	5	1.3
	4	自営業になった	1	0.3
	5	休職した	12	3.0
	6	失業した	5	1.3
	7	もともと働いていない	17	4.3
	8	特に変化はない	272	68.0
	9	パートナーまたは配偶者はいない	9	2.3
	10	答えたくない、わからない、該当しない	33	8.3

(2) 回答者の休職または休業の理由

Q17	Q16で休職または失業したと答えた方にお聞きします。理由として当てはまるものはありますか。	回答数	%
	全体	15	100.0
1	保育園の休園または利用自粛により在宅で保育しなければいけなくなったから	7	46.7
2	新型コロナウイルス蔓延に影響を受けた雇用先の休業または倒産	6	40.0
3	新型コロナウイルス蔓延に影響を受けた雇用先の人員整理による解雇	0	0.0
4	在宅ワークに切り替えることができない仕事だから	3	20.0
5	通常の定年または契約満了による退職	0	0.0
6	上記に該当しない	3	20.0
7	答えたくない	0	0.0

II-6. 仕事の仕方の変化（緊急事態宣言中（2020年4月7日～2020年5月25日））

緊急事態宣言中に「完全に在宅ワークになった。または在宅ワークが増えた」と答えた人は回答者で35.0%の140人、配偶者またはパートナーでも37.9%の148人であり、最も多い割合を占める。在宅ワークに着目すると、就業形態のうち、過半数の50%以上が在宅ワークを増やしたり、完全に在宅ワークに変更できたのは「正社員」と「公務員」だけである。また、特に在宅ワークに変更した人数が多く、全体の40%以上になった職種は、全14種のうち、「営業」、「事務・オフィスワーク」、「教育・カルチャー」、「IT・エンジニア」、「編集・出版」、「専門職」の6種であった。

Q18_1	緊急事態宣言中の仕事のしかたについてお聞きします。ご自身に当てはまるものをすべて選択してください。		
		回答数	%
	全体	400	100.0
	1 完全に在宅ワークになった。または在宅ワークが増えた	140	35.0
	2 転職した	8	2.0
	3 新しく副業（アルバイトやパートを含む）を始めた	7	1.8
	4 以前より忙しくなった。仕事が増えた	29	7.3
	5 以前より忙しくなくなった。仕事が減った	20	5.0
	6 仕事のしかたについて以前と変化はなかった	86	21.5
	7 休職したので働いていなかった	25	6.3
	8 失業したので働いていなかった	5	1.3
	9 答えたくない、わからない、該当しない	94	23.5

Q18_2	緊急事態宣言中の仕事のしかたについてお聞きします。パートナーまたは配偶者に当てはまるものをすべて選択してください。		
		回答数	%
	全体	391	100.0
	1 完全に在宅ワークになった。または在宅ワークが増えた	148	37.9
	2 転職した	7	1.8
	3 新しく副業（アルバイトやパートを含む）を始めた	7	1.8
	4 以前より忙しくなった。仕事が増えた	19	4.9
	5 以前より忙しくなくなった。仕事が減った	26	6.6
	6 仕事のしかたについて以前と変化はなかった	86	22.0
	7 休職したので働いていなかった	17	4.3
	8 失業したので働いていなかった	4	1.0
	9 答えたくない、わからない、該当しない	86	22.0

II-7. 経済状況の変化（緊急事態宣言中（2020年4月7日～2020年5月25日））

緊急事態宣言中、収入については約60%の人が「変化はない」と答えているが、生活費は「少し増加した」と答えた人が約60%に上り、最も多い。収入では、「少し減少した」と答えた人が2番目に多く、31.8%で127人である。一方で、「半分以下まで減少した」人2.3%で9人と非常に少ない。生活の実感について、「以前と変わらない」と答えた人が60%で最も多いが、「やや苦しくなった」と答えた人が次に多く、27.3%で109人である。

Q19	世帯全体の収入の変化についてお聞きします。当てはまるものを選択してください。		
		回答数	%
	全体	400	100.0
	1 変化はない	237	59.3
	2 収入が増加した	17	4.3
	3 収入が少し減少した	127	31.8
	4 収入が半分以下まで減少した	9	2.3
	5 収入が全く無くなった	0	0.0
	6 答えたくない	10	2.5

Q20	生活費（食費・光熱費など）の変化についてお聞きします。		
		回答数	%
	全体	400	100.0
	1 変化はない	114	28.5
	2 倍以上に増加した	25	6.3
	3 少し増加した	239	59.8
	4 減少した	15	3.8
	5 答えたくない	7	1.8

Q21	緊急事態宣言中の生活感の変化についてお聞きします。当てはまるものを選択してください。		
		回答数	%
	全体	400	100.0
	1 経済的に非常に苦しくなった	20	5.0
	2 経済的にやや苦しくなった	109	27.3
	3 以前と変わらない	252	63.0
	4 経済的に余裕ができた	10	2.5
	5 答えたくない	9	2.3

II-8. 保育サービスの利用状況（緊急事態宣言中（2020年4月7日～2020年5月25日））

緊急事態宣言中、サービスを中断したのが最も多かったのは認可保育所を利用していた人だった。利用を中断した間、だれが子どもを看ていたのか、という質問に対しては、「自分が自宅で看ていた」と答えた人が56.4%で最も多かった。また、自分以外が看ていた場合には、「配偶者またはパートナー」か「祖父母」と答えた人で90%以上になった。

Q22	緊急事態宣言中の保育サービスの利用についてお聞きします。この中に利用を中断した保育サービスはありますか。		
		回答数	%
	全体	400	100.0
1	認可保育所（定員20人以上）	108	27.0
2	小規模保育事業（定員19人以下）	11	2.8
3	事業所内保育所	4	1.0
4	家庭的保育事業（保育ママ）	4	1.0
5	認可外保育所（ベビーホテルを含む）	7	1.8
6	ベビーシッター	5	1.3
7	病児・病後児保育	2	0.5
8	幼稚園	75	18.8
9	認定こども園	8	2.0
10	その他の保育サービス	7	1.8
11	中断していない	72	18.0
12	もともと保育サービスを利用していない	103	25.8
13	答えたくない	17	4.3

Q23	保育サービスの利用を中断した方にお聞きします。最も当てはまるものを選択してください。		
		回答数	%
	全体	225	100.0
1	自分が自宅でこどもを看ていた	127	56.4
2	自分以外が自宅でこどもを看ていた	58	25.8
3	自宅以外にこどもを預けていた	14	6.2
4	その他	5	2.2
5	答えたくない	21	9.3

Q24	Q23で「自分以外が自宅でこどもを看ていた」または「自宅以外にこどもを預けていた」と回答した方にお聞きします。だれがこどもの面倒を見ていましたか。			
			回答数	%
	全体		72	100.0
	1	パートナーまたは配偶者	54	75.0
	2	祖父母	14	19.4
	3	上記以外の家族	5	6.9
	4	その他	3	4.2
	5	答えたくない	4	5.6

Q25	保育サービスの利用を中断しなかった方にお聞きします。緊急事態宣言中、どの程度保育サービスを利用していましたか。			
			回答数	%
	全体		72	100.0
	1	0～5時間未満	29	40.3
	2	5～10時間未満	10	13.9
	3	10～15時間未満	2	2.8
	4	15～20時間未満	6	8.3
	5	20～25時間未満	1	1.4
	6	25～30時間未満	3	4.2
	7	30～35時間未満	3	4.2
	8	35～40時間未満	4	5.6
	9	40～45時間未満	8	11.1
	10	45～50時間未満	4	5.6
	11	50～55時間未満	2	2.8
	12	55時間以上	0	0.0

II-9. 健康とストレス（緊急事態宣言中（2020年4月7日～2020年5月25日））

緊急事態宣言中の健康状態は変化がない人が75.5%で最も多い。ただし、精神面の変化では、「ストレスを感じるようになった」と答えた人が最も多い52%であった。そのストレスの理由としては「家庭保育を実施することの心身の疲れ」が多く、60.6%で、この理由だけがストレスを感じる人の過半数が答えていた。

Q26	緊急事態宣言中のご自身の健康状態はいかがでしたか。		
		回答数	%
	全体	400	100.0
	1 以前よりも非常に悪くなった	8	2.0
	2 以前よりも悪くなった	60	15.0
	3 変化はなかった	302	75.5
	4 以前よりも良くなった	24	6.0
	5 以前よりも非常に良くなった	6	1.5

Q27	緊急事態宣言中の精神面の変化についてお聞きします。最も当てはまるものを選択してください。		
		回答数	%
	全体	400	100.0
	1 ストレスを感じるようになった	208	52.0
	2 精神的に良い変化があった	30	7.5
	3 以前ととくに変わらない	149	37.3
	4 答えたくない、わからない	13	3.3

Q28	Q27で「ストレスを感じるようになった」と答えた方にお聞きします。具体的にどのようなストレスですか。		
		回答数	%
	全体	208	100.0
	1	家庭保育を実施することに対する心身の疲れ	126 60.6
	2	在宅ワークを続けることに対する心身の負担	45 21.6
	3	在宅ワークに切り替えることができないことへの心身の負担	15 7.2
	4	配偶者またはパートナーが家事や家庭保育に協力的でないことへの不満	34 16.3
	5	配偶者またはパートナーと過ごす時間が増加したことによる負担	52 25.0
	6	収入の減少や支出の増加による経済的不安	57 27.4
	7	該当しない	25 12.0
	8	答えたくない	3 1.4

Q29	Q27で「精神的に良い変化があった」と答えた方にお聞きします。精神面でよい変化があった原因は具体的に何でしたか。当てはまるものを選択してください。		
		回答数	%
	全体	30	100.0
	1	在宅ワークにより同僚や上司と顔を合わせる機会が減った	12 40.0
	2	P T Aやママ友と顔を合わせる機会が減った	2 6.7
	3	配偶者やパートナーと会話が増えた	16 53.3
	4	子どもと過ごす時間が増えた	14 46.7
	5	在宅ワークで通勤の負担がなくなった	10 33.3
	6	該当しない	2 6.7
	7	答えたくない	1 3.3

II-10. 仕事の仕方の変化（緊急事態宣言解除（5月25日）～6月末）

緊急事態宣言が終了して、仕事の仕方が特に変化しなかった人が、回答者、配偶者またはパートナーともに最も多い、32.8%で131人と、37.8%で151人である。二番目に多い「該当しない、わからない、答えたくない」にはもともと働いていない人も含まれる。三番目に多いのは回答者、配偶者またはパートナーともに「在宅ワークが終了した」人で、それぞれ14.8%で59人と16.5%で66人である。

Q30_1	仕事のしかたについての変化を教えてください。ご自身に当てはまるものをすべて選択してください。			
			回答数	%
	全体		400	100.0
	1	在宅ワークが終了した	59	14.8
	2	失業していたが、再就職した	4	1.0
	3	休職していたが、仕事を再開した	16	4.0
	4	転職した	4	1.0
	5	新しく副業を始めた（パート・アルバイトを含む）	5	1.3
	6	緊急事態宣言中と特に変化はなかった	131	32.8
	7	緊急事態宣言中よりも忙しくなった	45	11.3
	8	緊急事態宣言中よりも忙しくなくなった	11	2.8
	9	パートナーまたは配偶者はいない	0	0.0
	10	該当しない、わからない、答えたくない	133	33.3

Q30_2	仕事のしかたについての変化を教えてください。パートナーまたは配偶者に当てはまるものをすべて選択してください。			
			回答数	%
	全体		400	100.0
	1	在宅ワークが終了した	66	16.5
	2	失業していたが、再就職した	3	0.8
	3	休職していたが、仕事を再開した	18	4.5
	4	転職した	3	0.8
	5	新しく副業を始めた（パート・アルバイトを含む）	3	0.8
	6	緊急事態宣言中と特に変化はなかった	151	37.8
	7	緊急事態宣言中よりも忙しくなった	28	7.0
	8	緊急事態宣言中よりも忙しくなくなった	12	3.0
	9	パートナーまたは配偶者はいない	10	2.5
	10	該当しない、わからない、答えたくない	110	27.5

Q31	緊急事態宣言中に失業したが、6月末までに就職活動していなかった方にお聞きします。理由として当てはまるものを選択してください。			
			回答数	%
	全体		2	100.0
	1	心身の体調を崩して仕事をする事ができなかった	0	0.0
	2	保育所（その他の保育サービス）の利用を再開しておらず仕事ができなかった	0	0.0
	3	他の家族の収入などで余裕があるので仕事をする必要がなかった	0	0.0
	4	配偶者またはパートナーの在宅ワークが終了したので仕事を探せなかった	0	0.0
	5	仕事の探し方がわからなかった	1	50.0
	6	仕事が見つからないとあきらめていた	2	100.0
	7	その他	0	0.0
	8	答えたくない	0	0.0

II-11. 保育サービスの利用状況（緊急事態宣言解除（5月25日）～6月末まで）

Q32	6月末までに利用を再開した保育サービスを教えてください。		
		回答数	%
	全体	400	100.0
1	認可保育所（定員20人以上）	110	27.5
2	小規模保育事業（定員19人以下）	11	2.8
3	事業所内保育所	4	1.0
4	家庭的保育事業（保育ママ）	2	0.5
5	病児・病後児保育	2	0.5
6	認可外保育所（ベビーホテルを含む）	5	1.3
7	ベビーシッター	2	0.5
8	幼稚園	101	25.3
9	認定こども園	11	2.8
10	その他の保育サービス	5	1.3
11	再開していない	25	6.3
12	もともと保育サービスの利用を中断していない	28	7.0
13	もともと保育サービスは利用していない	90	22.5
14	答えたくない	18	4.5

II-12. 仕事の仕方の変化（7月1日～）

7月に入ってから、在宅ワークが終了した人は、回答者でも、配偶者またはパートナーにおいても、6月末までに終了した人とほぼ同じ人数いた。

Q33_1		7月になってからの仕事のしかたについて変化を教えてください。ご自身に当てはまるものをすべて選択してください。	
		回答数	%
	全体	400	100.0
1	在宅ワークが終了した	54	13.5
2	失業していたが、再就職した	5	1.3
3	休職していたが、仕事を再開した	9	2.3
4	転職した	4	1.0
5	新しく副業を始めた（パート・アルバイトを含む）	4	1.0
6	6月中と特に変化はなかった	151	37.8
7	6月中よりも忙しくなった	42	10.5
8	6月中よりも忙しくなくなった	14	3.5
9	パートナーまたは配偶者はいない	0	0.0
10	該当しない、わからない、答えたくない	125	31.3

Q33_2		7月になってからの仕事のしかたについて変化を教えてください。パートナーまたは配偶者に当てはまるものをすべて選択してください。	
		回答数	%
	全体	400	100.0
1	在宅ワークが終了した	53	13.3
2	失業していたが、再就職した	6	1.5
3	休職していたが、仕事を再開した	6	1.5
4	転職した	1	0.3
5	新しく副業を始めた（パート・アルバイトを含む）	3	0.8
6	6月中と特に変化はなかった	167	41.8
7	6月中よりも忙しくなった	31	7.8
8	6月中よりも忙しくなくなった	12	3.0
9	パートナーまたは配偶者はいない	11	2.8
10	該当しない、わからない、答えたくない	113	28.3

Q34	現在失業中または休職中の方にお聞きします。当てはまるものを選択してください。		
		回答数	%
	全体	13	100.0
	1 仕事を探している	1	7.7
	2 今後は仕事を探したいが今は仕事を探す気はない	3	23.1
	3 今後も仕事を始める気はない	2	15.4
	4 答えたくない、該当しない	7	53.8

Q35	Q34で「今後は仕事を探したいが今は仕事を探す気はない」または「今後も仕事を始める気はない」と答えた方は、理由として当てはまるものを選択してください。		
		回答数	%
	全体	5	100.0
	1 心身の体調を崩して仕事をするできない	0	0.0
	2 保育所(その他の保育サービス)の利用を再開していないので仕事ができない	0	0.0
	3 他の家族の収入などで余裕があるので仕事をする必要がない	1	20.0
	4 配偶者またはパートナーの在宅ワークが終了したので働けない	0	0.0
	5 仕事の探し方がわからない	0	0.0
	6 仕事が見つからないとあきらめている	0	0.0
	7 その他	2	40.0
	8 答えたくない	2	40.0

II-13. 保育サービスの利用状況（7月1日～）

Q36	7月から利用を再開した保育サービスを教えてください。		
		回答数	%
	全体	400	100.0
1	認可保育所（定員20人以上）	100	25.0
2	小規模保育事業（定員19人以下）	11	2.8
3	事業所内保育所	4	1.0
4	家庭的保育事業（保育ママ）	1	0.3
5	病児・病後児保育	4	1.0
6	認可外保育所（ベビーホテルを含む）	4	1.0
7	ベビーシッター	3	0.8
8	幼稚園	84	21.0
9	認定こども園	9	2.3
10	その他の保育サービス	5	1.3
11	再開していない	18	4.5
12	もともと保育サービスの利用を中断していない	60	15.0
13	もともと保育サービスは利用していない	93	23.3
14	答えたくない	17	4.3

Q37	今は利用していないが今後利用したいと希望する保育サービスを教えてください。		
		回答数	%
	全体	400	100.0
1	認可保育所（定員20人以上）	80	20.0
2	小規模保育事業（定員19人以下）	16	4.0
3	事業所内保育所	4	1.0
4	家庭的保育事業（保育ママ）	5	1.3
5	病児・病後児保育	10	2.5
6	認可外保育所（ベビーホテルを含む）	8	2.0
7	ベビーシッター	13	3.3
8	幼稚園	58	14.5
9	認定こども園	15	3.8
10	その他の保育サービス	10	2.5
11	特にない	216	54.0
12	答えたくない	20	5.0

II-14. 生活の実感（7月1日～）

7月からの生活の実感において、経済的に非常に苦しくなったと答えた人は22人いて、緊急事態宣言中の20人より増加している。

Q38	7月からの生活感を教えてください。		回答数	%
	全体		400	100.0
	1	経済的に非常に苦しくなった	22	5.5
	2	経済的にやや苦しくなった	69	17.3
	3	以前と変わらない	290	72.5
	4	経済的に余裕ができた	8	2.0
	5	答えたくない	11	2.8

II-15. 必要とする支援（7月15日～7月17日時点）

7月中旬の時点で最も必要とされている支援は現金給付であり、全体の71.0%に上った。次に子育て支援が続き、34.3%である。

Q39	今必要としている支援を教えてください。		回答数	%
	全体		400	100.0
	1	現金給付	284	71.0
	2	現物支給（マスク、食糧など）	58	14.5
	3	就職支援	18	4.5
	4	子育て支援（教育支援、保育サービスなど）	137	34.3
	5	なんでも相談できる窓口	39	9.8
	6	その他	21	5.3

2020年3月～6月における子育て世帯の生活環境および労働環境の変化に関する調査アンケート

対象：東京23区に住む6歳以下（未就学児）のこどもがいる子育て世帯の親

Q1.あなたの性別を教えてください。

女性

男性

Q2.お住まいの市区町村を教えてください。

Q3. あなたの年齢を教えてください。

年代を選択してください。

Q4. 同居しているお子さんは何人ですか。

人数を選択してください。

※1人～4人以上

Q5. 同居している末子（一番年下のお子さん）の年齢はいくつですか。

年齢を選択してください。

※0歳～6歳

Q6. 世帯人数を教えてください。

人

Q7. 世帯構成についてお聞きします。

母子家庭である。

父子家庭である。

両親のいる家庭である。

答えたくない。

◆緊急事態宣言が発令（4月7日）される以前についてお聞きします。

Q8. 保育サービスは利用していましたか。利用していた保育サービスすべてを回答してください。

Q12. ご自身とパートナーまたは配偶者の職種は何でしたか。

	営業	事務・オフィスワーク	販売	飲食	清掃	サービス・警備・ジャヤル・娯楽	イベント・レジャー	チャール・スポーツ	教育・カル	理・美容	医療・介護・福祉	ドライバー・配達	製造・工場・倉庫	I T・エンジニア	編集・出版	専門職	その他	答えたくない。
ご自身に当てはまるものをすべて選択してください。	<input type="checkbox"/>																	
パートナーまたは配偶者に当てはまるものをすべて選択してください。 (パートナーまたは配偶者がいない方は「パートナーまたは配偶者がいない」を選択してください。)	<input type="checkbox"/>																	

Q13. ご自身の就業時間はどれくらいでしたか。

1週間あたりの就業時間は、

以下から選択

※0~55 時間以上まで

Q14. パートナーまたは配偶者の就業時間はどれくらいでしたか。

1週間あたりの就業時間は、

以下から選択

※0~55 時間以上まで

Q15. 世帯収入はどの程度でしたか。

年収の選択。

※0~1501 万円以上まで

◆緊急事態宣言が発令（4月7日）されてから解除される（5月25日）までについてお聞

きします。

Q16. ご自身とパートナーまたは配偶者の就業形態の変化をお聞きします。

	公務員になった。	正社員になった。	非正規社員になった（契約社員・派遣社員・パート・アルバイトを含む）。	自営業になった。	休職した。	失業した。	もともと働いていない。	特に変化はない。	パートナーまたは配偶者はいない。	答えたくない、わからない、該当しない。
ご自身に当てはまるものすべてを選択してください。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
パートナーまたは配偶者に当てはまるものすべてを選択してください。 (パートナーまたは配偶者がいない方は「パートナーまたは配偶者がいない」を選択してください。)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q17. Q16で休職または失業したと答えた方にお聞きします。理由として当てはまるものがありますか。(複数回答)

- 保育園の休園または利用自粛により在宅で保育しなければいけなくなったから
- 新型コロナウイルス蔓延に影響を受けた雇用先の休業または倒産
- 新型コロナウイルス蔓延に影響を受けた雇用先の人員整理による解雇
- 在宅ワークに切り替えることができない仕事だから。
- 通常の定年または契約満了による退職
- 上記に該当しない。
- 答えたくない。

Q18. 緊急事態宣言中の仕事のしかたについてお聞きします。(複数回答)

	完全在宅ワークが増えた。また在宅ワークになった。また在宅ワークが増えた。	転職した。	新しく副業（アルバイトやパートを含む）を始めた。	以前より忙しくなった。仕事が増えた。	以前より忙しくなくなった。仕事が減った。	以前より忙しくなくなった。仕事はなかった。	仕事のしかたについて以前と変化した。	休職したので働いていなかった。	失業したので働いていなかった。	パートナーまたは配偶者はいない。	答えたくない、わからない、該当しない。
ご自身に当てはまるものすべてを選択してください。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
パートナーまたは配偶者に当てはまるものすべてを選択してください。 (パートナーまたは配偶者がいない方は「パートナーまたは配偶者がいない」を選択してください。)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q19. 世帯全体の収入の変化についてお聞きします。当てはまるものを選択してください。

- 変化はない。
- 収入が増加した。
- 収入が少し減少した。
- 収入が半分以下まで減少した。
- 収入が全く無くなった。
- 答えたくない。

Q20. 生活費（食費・光熱費など）の変化についてお聞きします。

- 変化はない
- 倍以上に増加した。
- 少し増加した。
- 減少した。
- 答えたくない。

Q21. 緊急事態宣言中の生活感の変化についてお聞きします。当てはまるものを選択してください。

- 経済的に非常に苦しくなった。
- 経済的にやや苦しくなった。
- 以前と変わらない。
- 経済的に余裕ができた。
- 答えたくない。

Q22. 緊急事態宣言中の保育サービスの利用についてお聞きします。

この中に利用を中断した保育サービスはありますか。(複数回答)

- 認可保育所 (定員 20 人以上)
- 小規模保育事業 (定員 19 人以下)
- 家庭的保育事業 (保育ママ)
- 事業所内保育所
- 認可外保育所 (ベビーホテルを含む)
- ベビーシッター
- 病児・病後児保育
- 幼稚園
- 認定こども園
- その他の保育サービス ()
- 中断していない。
- もともと保育サービスを利用していない。
- 答えたくない。

Q23. 保育サービスの利用を中断した方にお聞きします。最も当てはまるものを選択してください。

- 自分が自宅でこどもを看ていた。 ※ 1
- 自分以外が自宅でこどもを看ていた。
- 自宅以外にこどもを預けていた。 ※ 2
- その他 ()
- 答えたくない。

Q24. Q23 で ※ 1 または ※ 2 と回答した方にお聞きします。

だれがこどもの面倒を見ていましたか。

- パートナーまたは配偶者
- 祖父母

- 上記以外の家族
- その他
- 答えたくない。

Q25. 保育サービスの利用を中断しなかった方にお聞きします。
緊急事態宣言中、どの程度保育サービスを利用していましたか。
1週間あたりの保育サービス（認可保育所等）利用時間は、
時間を選択してください。

- Q 26. 緊急事態宣言中のご自身の健康状態はいかがでしたか。
- 以前よりも非常に悪くなった。
 - 以前よりも悪くなった。
 - 変化はなかった。
 - 以前よりも良くなった。
 - 以前よりも非常に良くなった。

- Q27. 緊急事態宣言中の精神面の変化についてお聞きします。最も当てはまるものを選択してください。
- ストレスを感じるようになった。※3
 - 精神的に良い変化があった。※4
 - 以前ととくに変わらない。
 - 答えたくない、わからない。

- Q28. Q27 で※3 と答えた方にお聞きします。
具体的にどのようなストレスですか。（複数回答）
- 家庭保育を実施することに対する心身の疲れ
 - 在宅ワークを続けることに対する心身の負担
 - 在宅ワークに切り替えることができないことへの心身の負担
 - 配偶者が家事や家庭保育に協力的でないことへの不満
 - 配偶者またはパートナーと過ごす時間が増加したことによる負担
 - 収入の減少や支出の増加による経済的不安
 - 該当しない。
 - 答えたくない。

- Q29. Q27 で※4 と答えた方にお聞きします。
精神面でよい変化があった原因は具体的に何でしたか。当てはまるものを選択してくださ

い。(複数回答)

- 在宅ワークにより同僚や上司と顔を合わせる機会が減った。
- PTA やママ友と顔を合わせる機会が減った。
- 配偶者やパートナーと会話が増えた。
- 子どもと過ごす時間が増えた。
- 在宅ワークで通勤の負担がなくなった。
- 該当しない。
- 答えたくない。

◆緊急事態宣言が解除（5月25日）されてから6月末日までについてお聞きします。

Q30. 仕事のしかたについての変化を教えてください。(複数回答)

	在宅ワークが終了した。	失業していたが、再就職した。	休職していたが、仕事を再開した。	転職した。	新しく副業を始めた（パート・アルバイト含む）。	緊急事態宣言中と特に変化はなかった。	緊急事態宣言中よりも忙しくなった。	緊急事態宣言中よりも忙しくなくなった。	緊急事態宣言中または配偶者はいない。	該当しない、わからない、答えたくない。
ご自身に当てはまるものをすべて選択してください。	<input type="checkbox"/>									
パートナーまたは配偶者に当てはまるものをすべて選択してください。 (パートナーまたは配偶者がいない方は「パートナーまたは配偶者がいない」を選択してください。)	<input type="checkbox"/>									

Q31. 緊急事態宣言中に失業したが、6月末日までに就職活動していなかった方にお聞きします。

理由として当てはまるものを選択してください。(複数回答)

- 心身の体調を崩して仕事をすることができなかった。
- 保育所（その他の保育サービス）の利用を再開しておらず仕事ができなかった。

- 他の家族の収入などで余裕があるので仕事をする必要がなかった。
- 配偶者またはパートナーの在宅ワークが終了したので仕事を探せなかった。
- 仕事の探し方がわからなかった。
- 仕事が見つからないとあきらめていた。
- その他
- 答えたくない。

Q32. 6月末までに利用を再開した保育サービスを教えてください。(複数回答)

- 認可保育所 (定員 20 人以上)
- 小規模保育事業 (定員 19 人以下)
- 事業所内保育所
- 家庭的保育事業 (保育ママ)
- 病児・病後児保育
- 認可外保育所 (ベビーホテルを含む)
- ベビーシッター
- 幼稚園
- 認定こども園
- その他の保育サービス
- 再開していない。
- もともと保育サービスの利用を中断していない。
- もともと保育サービスは利用していない。
- 答えたくない。

◆7月1日から現在までについてお聞きします。

Q33. 7月になってからの仕事のしかたについて変化を教えてください。(複数回答)

	在宅ワークが終了した。	失業していたが、再就職した。	休職していたが、仕事を再開した。	転職した。	新しく副業を始めた（パート・アルバイト含む）。	6月中と特に変化はなかった。	6月中よりも忙しくなった。	6月中よりも忙しくなくなった。	パートナーまたは配偶者はいない。	該当しない、わからない、答えたくない。
ご自身に当てはまるものをすべて選択してください。	<input type="checkbox"/>									
パートナーまたは配偶者に当てはまるものをすべて選択してください。 (パートナーまたは配偶者がいない方は「パートナーまたは配偶者がいない」を選択してください。)	<input type="checkbox"/>									

Q34. 現在失業中または休職中の方にお聞きします。当てはまるものを選択してください。

- 仕事を探している。
- 今後は仕事を探したいが今は仕事を探す気はない。 ※6
- 今後も仕事を始める気はない。 ※7
- 答えたくない、該当しない。

Q35. Q34で※6または※7と答えた方は、理由として当てはまるものを選択してください。

(複数回答)

- 心身の体調を崩して仕事をするができない。
- 保育所（その他の保育サービス）の利用を再開していないので仕事ができない。
- 他の家族の収入などで余裕があるので仕事をする必要がない。
- 配偶者またはパートナーの在宅ワークが終了したので働けない。
- 仕事の探し方がわからない。
- 仕事が見つからないとあきらめている。
- その他

答えたくない。

Q36. 7月から利用を再開した保育サービスを教えてください。(複数回答)

- 認可保育所 (定員 20 人以上)
- 小規模保育事業 (定員 19 人以下)
- 事業所内保育所
- 家庭的保育事業 (保育ママ)
- 病児・病後児保育
- 認可外保育所 (ベビーホテルを含む)
- ベビーシッター
- 幼稚園
- 認定こども園
- その他の保育サービス
- 再開していない。
- もともと保育サービスの利用を中断していない。
- もともと保育サービスは利用していない。
- 答えたくない。

Q37. 今は利用していないが今後利用したいと希望する保育サービスを教えてください。(複数回答)

- 認可保育所 (定員 20 人以上)
- 小規模保育事業 (定員 19 人以下)
- 事業所内保育所
- 家庭的保育事業 (保育ママ)
- 病児・病後児保育
- 認可外保育所 (ベビーホテルを含む)
- ベビーシッター
- 幼稚園
- 認定こども園
- その他の保育サービス
- 特にない。
- 答えたくない。

Q38. 7月からの生活感を教えて下さい。

- 経済的に非常に苦しくなった。
- 経済的にやや苦しくなった。

- 以前と変わらない。
- 経済的に余裕ができた。
- 答えたくない。

Q39. 今最も必要としている支援を教えてください。(複数回答)

- 現金給付
- 現物支給 (マスク、食糧など)
- 就職支援
- 子育て支援 (教育支援、保育サービスなど)
- なんでも相談できる窓口
- その他 ()

Q40. 最後に、今困っていること、不安に感じていること、支援してほしいことなどを自由に書いてください。(自由回答)

()